夕刊
磐城新聞
二月十七日發行
定價 一ヶ月 金五拾錢（郵税共）
廣告料金 普通 五號一行 金六拾錢
編輯兼發行人 柏木 行
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
振替東京一〇八五五六番

雜記 一二三（三）

五十嵐雄之

讀者各位の中にも菜食實行者は多數あることゝ信じて居るし又貴重な体驗も數々あることゝ思ふが野菜主食殊に生野菜食の實行後は身体の具合が至つて良いのを体驗しつゝある

醫學上から云つても、うまい物をたらふく食べると大抵萎縮腎になつたり糖ねふ病になつたりする、云ひ換へれば、ねふ中に蛋白や糖が現はれて血壓が高くなる殊に糖ねふ病になる人は大抵身体が肥滿して居りしよくも旺盛といふ健啖家であるからした一見健康さうな人が事實は結局早死する人となるのである

實際問題としても『人生は四十から』といふ通りこの四から對社會的生活も複雜多端となつて宴會等も繁くなり遂々うまい物を食べ過ぎ勝ちとなるのでしらず〳〵の間に不養生を重ねてゆくこととなるのである

此時に無實なしよく物をたらふく食べ滿腹感を滿たし延いて健康長壽、精力增進の目的に叶ふ樣になれば至極結構である、これには野菜生食を最も適切なものと信ずる卽ち之れに依つて肉しよくより生ずる毒素を中和し然も慣るゝに從ひ言ふべからざる滋味を感じしかも至つて安價にあがるといふ極めて結構なことである、殊に我國は諸外國に比し果實、野菜には非常に惠まれてゐるのでこの天惠をもつと十分に利用してゆかねばならぬのである

大根、人參、ほうれん草甘藷、トマト、胡瓜かろいふものは生のまゝで少しもたべにくいことはない、豆類の如きも慣れれば結構たべられるといふことである

野菜生しよくに就いて消化不良の懸念が抱かれてゐるやうであるが、或る程度咀嚼すれば決してその心配はなくむしろ消化は早く直に空腹を覺えるのである。便は下痢にも秘結にも傾かすコロ〳〵した有形便となつて一日一回起床時に甚だ氣持よく排泄されるのが常である

冬の詩

秦 不二男

北方の山脈から
うす青い パンセをはらんで
すきとほるほどの
北風が流れてくる
凍りつめた
平原に
咲き亂れる樹氷のむれ
こゝろを掠め去るのは
一つらの
渡り鳥のかげであらうか
水いろの
雪の反射光のなかに
私は
透明な肉體の歷史をかんじてゐた

訪大出前平局長

珠雲 小野務平

城北口出登一莊
四時風景壯詩腸
羨君功就挂冠後
自適悠々物外郷

今日の訓へ

哲名 山人

松柏の恒に翠然たるは、絶らざる新陳代謝に因る、之と同じく人も時々フレッシュな道德思想の輸血が必要である

2月18日

△この日誕生日の人 ―藤田幽谷（安永三）△この日を忌日の人 ―呑海上人（嘉暦二）△雪舟（永正三）△三條實義（明治二四）△法然上人土佐に流さる（建永二）△江戸幕府外船打拂令を下す（文政八）△プロ拳鬪試合初めて擧行（大正一二）

初詣で

土田英一

○朝風は靜かなれども宮杉の梢ゆ散りとぶ雲しきりなる
○たまゆらを風過ぎゆける杉の梢ゆこごだ吹き散る雪をかぶれり
○木の間透きて見え來る村の家並は雪けぶらひてしづもり深し
○向山の雜木の梢のなりわたり風過ぎゆけば鳥鳴き立ちぬ
○斷崖の笹の葉鳴りに聞き入りて歌想ふらしき君のまとも顔

寄贈書目

△法律新聞二月十三日號・論說、雜報、隨筆、資料海外、判決例等例によつて清新な讀物滿載（二部稅共十錢五厘、東京市日本橋區本町四丁目五ノ五其社）

講談

妖刀流轉（えうとうるてん）

(15) 邑井貞吉演 佐々木今朝吉畫

權次の最期（七）

權『それで一體金高は……！』

了『なにしろ爪へ火をとぼすようにし一生懸命ためた金が段々殖ねて二百兩』

權『えゝつ』

權次も目を丸くしたが驚く譯だ、今と違ひ昔の二百兩は大金で御座います

權『そ、その金をお前、どうしたんだつて』

了『さあその金が今ここに有るくれえなら苦勞はしねえ、二百兩が一文殘らず俺ば欺されて取られたんだ』

と了念もこゝ迄云ふと口惜さに一層こみ上げて來たものと見ね苦しんで呻りながらも、わあ〳〵聲をあげて男泣きに泣き出した、權次は欺されて取られたと聞いて一層驚き

權『五分も隙かさねえ氣象のお前を欺して金をとつたなあ全體誰だね』

伯父の了念は苦しさうに首をふつて

了『何卒後生だからそれを聞いてくれるな、言へば乃公の恥になること、といふのは年甲斐もなく乃公あ女に欺されたんだ、尤もそれも色戀ぢやあ決して無え、色戀で無いだけに油斷をしたのが此方の不覺！、うま〳〵と欺され虎の子のやうにため た金を綺麗に皆な巻上げられ、その揚句に踏んだり蹴たり、俺あひどい目に遭はされた、これも皆な若い時分に惡い事をした報ひだらうが、どうにも乃公は諦められず口惜しい口惜しいと腹の中は煮ゐるやうそれか原因で病氣になつたが、藥を買ふ手當も出來ねえ、長家の衆の親切でどうやらこれ迄生きては來たが目をねむつても葬らひを出す金も有りやしねえのだ、濟まねえが權次あとの所はどうぞお前に頼んだぜ』

といふ苦しき息づかひ、權次は枕元に腕を組んで

權『聞けば聞く程わからねえ、色でもねえ戀でもなくされ、年よりのお前さんが女に欺され、金をとられた揚句にふんだり蹴つたりされたといふのは全體そりやア何した事だ』

了『それ程お前が聞きてねなら、乃公も口惜しいから話るするが名前だけは勘辨してくれ先きの女はある宿場女郎だが、實は權次聞いてくれ』

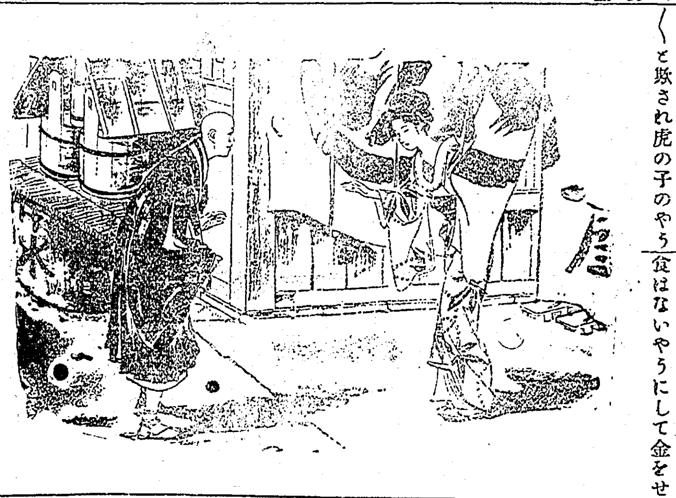
と了念が息も絶ね〳〵になりながら話したところによりますと……

此了念は前申上ぐる通り諸方を貰つて歩く乞食坊主破れ衣を引かけてはゐるが何處の寺にゐるといふではない、お念佛は看板だがカン〳〵と鉦を叩いて廻りさへするば髄分と貰ひがあるそれで自分でも食ふものも食はないやうにして金をせめたが、天知る地知る人の口にもあの坊主は金を持つてゐるといふのが如何に汚い姿をしてゐても噂になるこれを聞いた手取りの女郎、如何に手取りでもこの乞食坊主ばかりは欺されないだらうと、朋輩の女郎に弄かはれた時に

女『何の欺さうと思やア乞食坊主だらうが何だらうがキット私は欺して見せる、いくらためてるか知らないが私は卷上げて見せるよ』

と云つたのを一同もマサカと思つてゐると、ある日の事了念が立つた女郎屋の門口カン〳〵やつてゐると

女『チョイと了念さん』



新年俳句大會の記

主催好間初鴨句會 伊藤寒山子記

三

しかも會津の初鴨から六平、龍尾二氏が作品をはるばるよせて來られたのは何と云ふうれしい心であらう武門、柴子の兩君も出席出來なくて殘念であつたらう草野の喜一郎先生も所用まかりいでられぬ旨を報じて來られた、今度の機會には是非にとの御便りであつた初鴨の兆童さんからは、祝電が舞ひこんだ。未だ相見ぬ句友のかくも溫いものかと感激の涙にむせんだものだ。石城の俳人は小異を捨てゝ一堂に會して俳句道のために精進すべきだ。近頃のさびしい姿はどうだ。よるべき雜誌は何でもよい進むべき道は性格によつて分れて差し支へない。しかしたどりつくべき頂きは同じはづだ。考へは胸を去來してともすると句作からそれる

清記、選句、披講と相當長い時間がかゝつた。此の間、先鋭喜三郎氏、縱橫の手腕をふるはれてテキパキと進行をはかつて下されたのはうれしい事であつた

酒盃は和やかにめぐり、楢打つ雨音も今は快かつた懷古談、現俳壇痛擊論、石城俳壇盛衰談等々がみだれとぶ。雅山の想ひ出がなつかしく語り出される。上鶴喜山郎の弟子の人には感激の頬を紅潮させてゐる。句評がはじまる。上鶴、秋岳は馬醉木の句を作るため炭坑の山神様の馬醉木をみつめながら大激論をたゝかはしたとか。彼論じ我駁する論戰はさぞかし見物であつたらうと揶揄するものもある

連日滿員御禮
豪華なサロン新たな設備！
御同伴で御商談
御會合に
（心付御會計の一割外拜辭）
御食事
喫・茶
小宴會
グリル バツカス 電七〇二

廣告

松村醫院
院長 松村鐵郎
平町南町電一〇七

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
上田醫院
病室完備（電話 一二九）

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
万織田材木商店へ
福島縣平町 電話平 四六〇番
營業種目
建築木材一式
銘木・ベニヤ板
秋田産・杉四分板
建具材・便利瓦
一變せる勉強振りを、ぜひ一度お試を乞ふ

產科 婦人科 外科 藥局
院長 木村寅次郎
醫學博士 内木宗八
藥劑師 大岩俊雄
入院隨意 病室完備
平町新川町十九番地
木村病院
電話一六四番

合名會社
諸機械製作販賣
田邊製作所
平白銀町（驛前通）電話二九四番
機械切各種齒車製作

電話番號變更
產科婦人科
五十嵐醫院
平町新川町一二
醫學博士 五十嵐雄二
電話三六九番
（入院應需）

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ マス ハカリ
計量器
体溫器 寒暖計
◎秤ノ取扱 ◎諸道具・修繕致シマス
關內藥局
電話四〇番

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意 病室完備）

開店おひろめ
新田町の一角に春の陽ざしを受けてポッチリトリラの花が咲きました。未だ小さな可憐な花です。どうぞ皆様のお力で育てゝ下さいませ。
（洋酒各種 日本酒 喫茶）
二月十一日 開店
お勤めの御歸りに、お買物の御序に、お散歩のかたはらに、是非御立寄り願ひます。
平町・新田町
茶房 リラ

優秀なる專門技術
完備せる試驗設備
モートル 變壓器 修理工場新設
平町月見町
合資會社 佐藤鐵工所
電話三六二番

外科、內臟外科
エッキス光線科 院長 安齋徹
新設 產婦人科 醫學士 黑澤廣
入院隨意
平町田町
安齋醫院
電話四七五番

家傳 十二指腸の靈藥
方名 十二指腸虫藥黄疸腸病丸
◎十二指腸虫寄生症
診候 此虫が腸内に寄生せば十二指腸病を起し初めは身體が非常にだるく次第に貧血して一種特別の青白い顔色になり唇爪までも血色を失ひ或は爪の甲が反對に湾曲し、いき苦しく動悸亢進し、頭痛、耳鳴り等を覺へ水はれ、胃腸部の苦痛を訴へ萬事倦怠、神經抑鬱、食氣不振となり勞働は勿論階登り水汲等も出來なくなり段々衰弱します。
斷食も下劑もいらず苦みも疲れもせずになほる驚く程偉大の効あり
㊣心臟病、貧血病、黄疸病にも特効あり
本劑にて忽ち顔色櫻色になり元氣恢復し三週間服用せばキット全治す躊躇せず服用して健康體となられよ
㊣ハガキにて御申越し次第代金引換小包郵便にて直に發送す
…一週間分一圓十錢…
特約販賣店 常磐線植田町
安田屋藥局
電話一三〇番

石城郡平町田町五番地
千代田火災保險株式會社代理店
㊂丸三株式店
公債株式 現物賣買 電話仲介
常盤光威
電話四六番
小店員募集（十五、六才）委細面談

謹呈 陳者今般弊店儀左記出張所設置仕候間多少に拘らず御拂下御買上共御用命の程願上ます
御拂下御引受品名
銅、鐵、鉛、屑古金物、汽罐、レール、鐵管、其他機械器具一切
御買上御用命品
中古機械、レール、鐵管
其他礦山用機械器具一切
右御用命の節は乍憚電話又は郵便御一報下被候ば早速店員參上御買上御拂下に拘らず見積書提出可仕候間宜敷御利用の程重ねて御願申上候
海軍工廠 御用達
井尻七三郎商店
出張所 福島縣平町鍛冶町十一 電話五二二番
本店 大阪市南區宗堀町三十三番地 電話東五三三四番
支店 呉市藏本通十一丁目一番地 電話二一二〇番

信組と農會の改組で神谷村民の一部動搖

天馬空を行く手腕に左右の見解　注目さるゝ佐藤豪快村長の態度

保證責任神谷信用販賣購買利用組合第二回通常總會は一昨十五日午後二時より同村小學校に於て開會したが總組合員數二百三十名中出席約百名、十一年度財産目錄貸借對照表、借入れ及び餘裕金預入銀行、組合事務所建築等合計五議案を可決したが、六號議案理事一名（佐藤鉾一氏）辭任に付き補充選擧の件に入るや現村長佐藤庄太郎氏の理事就任を不可とす一部から猛烈な反對論が起り、遂が豪快無比な同村長も一時は辭意をさへ洩らす程の紛糾錯綜を見せたが結局各部落二名宛合計十二名の委員を擧げ別室に於て協議の結果午後八時に至り辛じて村長の憤激は一先づ慰留し、徐ろに今後の推移を靜觀する事になつたものゝ、右は近く論議の表面化を見るべき村農會の改組に關する前哨をなすもので今回の動向は單に當面の小康を得たに止まり、村民の歸趨が其の場合如何に展開するかは極めて興味ある問題として成り行きを注視されてゐる

四十六萬餘圓也

新味は商業建設費丈け　けふ内示さる

平町新豫算

總額四十六萬六千八百八十五圓の平町十二年度豫算案は既報の如く今十七日午後一時から内示された、その主なるものを擧げれば歳入では兒童數の增加に伴ふ授業料增額から使用料手數料が二千八百四十五圓增加して十一萬八百十五圓特別戸數割は今年度同樣一戸當り平均十八圓だが戸數の增加で九百圓を增して八萬八千七百四十圓、歳出經常部では第一校二學級增加によつて小學校費が八萬四千二百三十三圓（二千八百七十二圓增）同臨時部では土木費が二千九百圓增額して二萬五千六百九十七圓四阿の改築に公園費三百圓平商敷地買收費千四百八十三圓、同建築費に八萬圓を新規計上してゐる、永年の懸案たる平商建築費の外別に目新しいものはないやうである

豫算の内譯

〔歳入の部〕

財産より生ずる收入四五六　使用料及手數料一一〇、八一五　水道工事費收入六、四四二　交付金五、〇五六　國庫下渡金二八、五〇一　納付金五　就學奬勵金二二〇　國庫補助三、七五四　縣補助金二、八三〇　寄附金二〇、〇一二　繰入金三、〇〇〇　財産賣拂代一五、五〇一　繰越金二二、〇〇〇　雜收入一三、四三七　町税一五四、八五六　地租附加税八、七〇四　特別地税附加税三〇　營業收益税附加税九、一九八　鑛業税附加税二二〇　縣税家屋税附加税一五、一五〇　縣税營業税附加税七、六五〇　同雜種税附加税二五、一六四　特別税戸數割八八、七四〇　町債八〇、〇〇〇　合計四六六、八八五

歳出（經常）

神社費一六〇　會議費二、一七五　役場費五一、〇二七　土木費一〇、一〇八　小學校費八四、二三三　商業學校費二七、八八四　青年學校費二、五九五　學事諸費四二六　トラホーム豫算五〇四　傳染病豫防費一、〇六九　害虫驅除豫防費一〇五　傳染病院費三、七四二　汚物掃除費六、五五三　水道費一四、一四二　公園費二、三一〇　火葬場費一、二三八　勸業費一、三九〇　統計費五三一　職業紹介所費三、三六一　社會事業費三五〇　救護費一、九八九　警備費八、八二一　徴發物輸送費一　財産費五六三　諸税負擔二〇〇　公金取扱費五一〇、公會堂費二〇　雜支出一、二五六　公債費七二、〇四二　戻入金一、六〇一　地方改良費三、三〇〇　豫備費七、〇〇〇　計三一一、二〇六

歳出（臨時）

土木費二五、六九七　小學校費四、九二二　商業學校費四一〇　選擧公營費五　警備費五、一三四　傳染病院費三〇〇　公園費三〇〇　寄附金九、一五九　補助金三、〇三六　市制施行費一、〇〇〇　訴訟費五　役場費五〇〇　水道費一七、三〇三　都市計劃調査費一、三七五　土地拂下繼續費本年度支出額一、三五〇　商業學校敷地買收繼續費本年度支出額一、四八三　公會堂費八〇〇　商業學校建築費八〇、〇〇〇　雜支出二、九〇〇　計一五五、六七九

凶作を防止せよ

―川前で耕種改善協議―

凶作對策の一手段として縣では去る昭和九年以來凶作地域町村に於て每年これが防止耕種改善講演座談會を催して來たが今年も本郡では川前村で來月一日本橋技手が出張して催す事となつた尚同座談會により今年最初の苗代品評會を開く事になつてゐるので特に健苗養成督勵の趣旨徹底に力を入れると

乾繭聯合會設立委員會

きのふ平町で開催

石城郡下乾繭販賣利用組合聯合會設立委員會は昨十六日午前十時から郡會事務所に開き委員十名によりこれが設立促進の協議をなした尚双葉郡下でも近く催す筈今後は四倉、植田兩繭市場を合併し乾繭組合の强化を圖る方針であると云ふ

小唄市丸

―平町で開演―

在郷軍人平町分會では資金造成のため來る二十一日晝夜二回平館で小唄市丸の一行を招いて『流行歌の夕』を催す、尚ほこれには田町美妓連も出演する、プロ左の如し

長唄一松の緣　同近江のお兼　三ツ面子守　長唄連獅子　久富吉晴師（皇國の春　雪ふる夜　船頭ぐらし）市丸師（初春スチャラカ　お夏可愛や　つのる想ひ　白頭山節）

村民の龜鑑

鹿島で節婦表彰

鹿島村上矢田字太郎作一七長瀬アキ（六二）同村舟戸字八合二三草野ヤス（六三）の兩女は去る十一日紀元節に際し節婦として志賀村長から表彰されたが兩女共夙く夫に死別、以來子供の養育の傍公共團體に盡力したものである

第。四。校。委。員。會。 平第四小學校敷地買收委員會を十九日午後一時から開く

磐。崎。校。學。藝。會。 磐崎小學校では十七日午前九時より同校講堂で全兒童の學藝會を催した、尚小名濱小學校でも昨十六日午前十時から催し終つて父兄會を開いた

運轉手試驗

本縣自動車運轉並に就業免許試驗は來月二日から五日迄信夫郡渡利村蠶業農學校で行ひ學科試驗を翌六日午前九時から福島公會堂で行ふ、尚就業地免許試驗は六日同公會堂で行ふ

主家から盜む

錦村

集金を猫バゝ

内郷村小島生れ當時双葉郡刈野村大字室原吉田庄司（四五）は去る十四日夜八時頃家主の吉田孝七方倉庫から醬油五升を竊取、取調べの結果同部落積立金の集金方を孝七から依賴されたと稱して五十餘圓を集め全部着服した事實も判明

母戀しが運の盡き

茨城縣下を荒した村上喜之助捕はる

平署では茨城縣松原署の指命手配により十六日夜内郷村綴で竊盜犯人秋田縣山本郡八森村生れ漁夫村上喜之助（二九）を逮捕、身柄を石川部長に引渡した

村上は茨城縣下を荒し廻つた上數日來内郷村綴に居る實母の許に潜伏してゐたものである

少年大火傷

湯本町八仙榮二男梶原内今一（七）君は十六日午前九時半頃入山大山神社境内で焚火中大火傷を負ひ重態

天氣豫報

（小名濱測候所觀測）

今晩も明日も北西の風　晴

司。法。主。任。出。福。 平署齋藤司法主任は十八日から三日間福島檢事局に開かれる縣下警察署司法特高主任會議に出席のため今十七日出福

十八日

（小名濱測候所發表）

滿潮　前八、〇〇　後一一、一〇

干潮　前一、四〇　後三、四〇

直營原則を緩和して何卒御下命願ひ度い

組合から町當局へ陳情

平町土木建築請負組合は現在二十名の組合員を有し、相互の親睦と斯業の伸展を圖りつつ健全な發達の道程を辿つてゐるが、從來有數の職場として當業者一同が少からず信頼して居つた地元平町が諸種の事業を企劃するに當り先年來殆ど之を直營事業として請負業者の手に委せず、さらでだに業界沈滯の折柄、之が恩惠に浴せざる爲に各請負業者及びその所屬勞働者の被る影響實に甚大なるものあるので、徒らに當面の利益のみに沒頭せず、誠實事に處するを條件とし所謂社會政策的見地から工事請負下命方に就き左記陳情書を青沼町長はじめ各町會議員に提出する事になつた

陳情書

當平町土木建築請負組合は現在二十名の組合員を有し、直營協力常に相互の親睦と同業の伸展向上を圖り其の成績見るべきもの有之候處從來有數の職場として組員一同に對し永年來其の恩惠を垂れられたる御町が近來動もすれば殆ど全事業を擧げて之を直營とし敢て請負業者の手に委せず、業界不振の昨今、組合員一同及び所屬勞働者の被る影響實に絕大にして今や將に生活を脅威されんとする實情に有之候に就ては事情御憫察の上此際社會政策を加味せられ大小各般の工事に際し御同情ある御下命を相仰ぎ度く、茲に誠悃を披瀝し謹んで此段及陳情候也

昭和十二年二月

平町土木建築請負業組合

組合長　前澤文太郎

幹事長　丹野幹之丞

幹事　荒川銀治　佐藤爾太郎　岡田政次郎　强口唯七郎

會計　只野忠康

造林研究の集ひ

本局河田課長を迎へ　來月初旬平町で開催

東京營林局主催本縣内各營林署の造林研究會は來月八九の兩日平町で開催される出席者は福島、郡山、白河棚倉、石川、原町、平、浪江、富岡、植田の各營林署員で、福島營林署からは野村署長、藤原、中野の三氏が出席東京からは河田造林課長その他が來平する

この研究會は各營林署員の造林に關する研究發表並びに今後の計劃等を協議懇談するものである

石城林野保護總會

けふ優良組員表彰

平署管内林野保護組合總會は今十七日午前十時から同署會議室に開き

注意事項　保安林保護　林野火入　林野火災豫防　森林盜伐豫防警戒

協議事項　林野火災に際し組合員負傷したる場合の救護方に關する件（大利組合長大和田嘉男氏提出）

を附議後既報優良組合員の表彰式を擧行した、尚林野の火災は各關係筋の警戒によつて逐年減少し去る九、十、十一年度の統計について見ても

	件數	面積（畝）	損害（圓）
九年	三	四、二六六	一、〇一七
十	二	六、一〇六	二四九
十一	三	一六	一三

であるので喜ばれてゐる

郡下四ケ町村に對し出稼指導員任命さる

町村、紹介所と連絡をとり愈よ活動を開始す

出稼者の保護組合と共に縣では東北振興の施設として此程郡下必要町村に出稼指導員を任命した、本郡下では保護組合所在地の四倉の外永戸箕輪、上遠野、田人各町村に各四名宛十六名任命されたが愈よ本格的活動を開始する事となり此程これら指導員が平町會議事堂に參集

出稼指導員服務規程、紹介所との連絡、滿洲農業移民、南米移民、諸報告、出稼保護組合

の諸項について打合せ今後は紹介所、各町村役場と緊密な連絡をとりつゝ目的の達成に乘り出す事となつたので各方面からの求人殺到に惱されてゐる平紹介所では『求人口一覽表』を各指導員に送付、斡旋の圓滑を圖つてゐる、因みに郡下の出稼指導員（田人を除く）左の如し

（永戸箕輪）高萩昌平　内藏直治　遠藤宗藏　松崎叶

（四倉）鈴木克哉　佐藤喜藏　花澤賢有　西川龜之助

（上遠野）上遠野庄松　蛭田虎次郎　瀬谷子之吉　鈴木嘉平

廣告

高久病院
院長　高久忠
電話五一三番

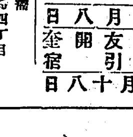
待望久し 唄の『市丸』來る

新進歌手　久富吉晴
天才作曲家　佐々木俊一
ビクター專屬
唄の『市丸』
伴奏一行出演
特別出演　平名妓多數
日時　二月二十一日　晝正午後二時から　夜日曜午後七時から　二回
場所　平館
會員券一枚　金壹圓也
主催　平町軍人分會

洋服裁縫
時代ニ適シタ職業
小徒弟募集（十名）
○學歷（尋卒 高卒）
○年令（十六、七歳迄デ）
佐川洋服店營業所（電四一八番）

職員募集
採鑛係員　四名
學歷アレバ結構ナルモ無クテモ宜シ
實地經驗ノアル者ニシテ身体强健ナルモノ
給料八月四拾圓乃至百貳拾圓
希望者ハ至急御申シ込ミ下サレ度シ
石城郡赤井村小川鄕
福島炭礦

内臟外科一般
外科花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九



新曆二月十八日　木曜　一白　丙子　旧一月八日　友引　開　奎宿

諸判定總帥　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠舘

▲一白　たい然自若として事におどろかず初志に進むべし▲二黒　展開の道は資力を豐富に備ろにあり勉めよ▲三碧　不言實行を旨とし傍目を振らず直進すべし▲四綠　はつらつたる元氣をたくはへて事にくつせず辛抱せよ▲五黄　一家をたばね得ざるは衆をひきゆるの力も無し▲六白　滿身の熱誠は鬼神をも動かし事本成就せん▲七赤　立身出世の道は長きにたわまず進めば到達す▲八白　血氣に任せて過ちを生じ易し輕忽をいましむ▲九紫　内輪に不快なる事起る日遠方交易には宜し

恐るべき中風、腦溢血を速治せしむる
アイヨー錠
血壓を下げ、血管若返り、中風を全治し、早老及老衰を豫防す。
中風の原因は血管の硬化にあり血管硬化すれば血壓高まり精神的並に肉体的に退行現象を生じ所謂老年病を誘發し或は中風腦溢血を突發す。
アイヨー錠の應用は血管に若返り現象を與へ老衰の進行を緩徐ならしめ初老及中老期に随伴する總ての不快症を除去し中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓症、初老期に於ける体力及精力減退、中風、腦溢血の豫防に常用すべき貴重藥
百四十四錠（八日分）貳圓　四百八十六錠（廿七日分）六圓
千八百錠（百日分）貳拾圓
專賣店　山野邊藥局　平町五丁目（電呼六六八）